【原　　著】

日中の高校生の手紙を使った交流活動を取り入れた国際理解教育の試み

―国際的課題を取り上げた公民科の単元開発―

別木　萌果　周　星星　桑原　敏典

An Attempt at International Understanding Education Incorporating Letter Exchange Activities between Japanese and Chinese High School Students: Through Development of a Civics Unit Plan on International Issues

BEKKI Moeka, ZHOU Xingxing, KUWABARA Toshinori

2025
岡山大学教師教育開発センター紀要　第15号　別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education and Development, Okayama University, Vol.15, March 2025

岡山大学教師教育開発センター紀要，第 15 号（2025），pp.313 − 324
原　著　【実践報告】

日中の高校生の手紙を使った交流活動を取り入れた国際理解教育の試み

―国際的課題を取り上げた公民科の単元開発―

別木　萌果※1　　周　星星※2　　桑原　敏典※３

本研究は，日本と中国の高校生が地球規模の国際的課題について考えを共有するために，手紙を交換する学習活動を通して相互理解を深め，国際社会の一員としての自覚を持つようになることを目指した授業の開発・実践の成果を報告するものである。実践を通して，交流活動は生徒にとって次のような意義があることが明らかになった。第一は，外国人との初めての一対一の交流であったということである。直接会わない形であったとしても，今回の授業を受けた多くの生徒にとっては他の国の人と関わる初めての経験であった。第二は，他国の文化や学校への関心を持つきっかけとなったことである。第三は，気候変動問題に対してグローバルな視点で考えるきっかけを与えられたということである。

キーワード：国際理解教育，公民科，単元開発

※1　東京都立小川高等学校
※2　石家荘学院外国語学院（中国）
※3　岡山大学学術研究院教育学域

Ⅰ．はじめに

本研究は，日本と中国の高校生が地球規模の課題について考えを共有するために，手紙を交換する学習活動を通して相互理解を深め，国際社会の一員としての自覚を持つようになることを目指した授業の開発・実践の成果を報告するものである。

気候変動や感染症，紛争など，国際社会には日本だけでは解決できない問題が多くある。グローバル化が進む現代において，国の枠を超えて問題を解決しようとするグローバル人材の育成が求められており，そのような社会的要請に対応できる教育理論が求められているのである。しかし，池野（2014：140）が述べているように，国家を超えた理念的なグローバル社会のアイデンティティを形成することは困難である。多くの高校生は国を超えて何か問題を一緒に解決しようとする経験を持つことはもちろん，そもそも，海外の人と会話する経験もほとんどない。

このような背景の下で，本研究では気候変動問題について日中の高校生が共に考える実践を行った。ここで改めて論じることでもないが，地球の気温が年々上昇していることは国内外で喫緊の課題となっている。日本だけでは解決する

ことはできないため，日本における対策を議論するのみでは，「どうせ解決できない」といった無力感を生徒に抱かせてしまう可能性も考えられる。そこで本実践では，当時，日本の大学院に留学している中国人学生（第二著者）が，日本の高校教師（第一著者）と中国の高校教師を橋渡しし，日本人高校生と中国人高校生が互いの文化の違いや気候変動対策への意見について手紙交換した。

実践は，第一著者の勤務校で，2023 年に公民科「政治・経済」の授業の一環として行なった。交流する中国の高等学校は，第二著者の知人が勤務している学校であった。

第二著者の知人のＡ教師は，生徒の国際交流活動に熱心に取り組んでいる英語科目を担当する教師であった。交流先の中国の高校生にとって，本実践は異文化交流を目的とする課外活動として位置付けられていた。生徒には課題の提出は任意であることを説明し，自主的に課題を提出した生徒のデータを分析した。実践の経過は以下の通りである。

① 中国のＡ教師へ実践を説明し，承諾を得る。
② 中国の高校生に日本の高校生に対する手紙を書いてもらい，日本語に翻訳する。
③ 日本の高校で授業実践を行い，日本の高校生に中国の高校生に対する返信の手紙を書いてもらう。
④ 返信を翻訳し，中国人の高校生へ送る。
⑤ 日本の高校生に授業を振り返ってもらう。
⑥ 両国の高校生の手紙のデータと日本の高校生の振り返りに関するデータを収集する。

以下，実践の成果を論じる。

Ⅱ．授業計画

１．授業の背景

気候変動問題は各国が単独で取り組むのではなく国境を越えた取り組みが求められる重要な問題であり，かつ，日中間の歴史解釈や領土問題など直接的に争っている問題ではないため，比較的議論しやすいテーマであるだろう。気候変動問題を題材とする先行実践としては，気候変動の学習を通して探究能力を育成しようとする実践（和田文雄 2010），地理学習の改善を求めようとする実践（桐山信一 2022），社会参加を促そうとする実践（永田成文 2008），炭素税を教材とする意思決定学習として社会認識形成を通じて市民的資質を育成しようとする実践（豊嶌啓司 2001）などがある。日本国際理解教育において，気候変動問題を含む地球規模課題への取り組みは，理科などの特定の教科や総合学習の時間にこうした課題を委ねる傾向があると指摘された（永田佳之 2018：10）。そして，永田も，グローバル化への動的理解の重要性から地球規模課題を教材としての意義を論じた。永田佳之（2018：9）では，「グローバル化によって国家及び国境の意義が相対的に希薄化しつつある現実を踏まえて，現代社会のダイナミズムに基づく地政学を活かした問題解決学習が国際理解教育に求められ

ている」と述べている。また，気候変動問題をめぐる論争は，「炭素税を導入すべきかどうか」の日本国内の議論（豊嶌啓司 2001）から，「カーボン・ニュートラルをいかに実現するか」というグローバルな議論になってきている。つまり，現在の気候変動問題は，もはや一国の中での議論にとどまることができない論争問題となった。しかし，以上で紹介した事例はどれも日本においてどのように課題に取り組むかといった視点が中心となっており，他国とどのように協力するかといった視点が弱いことが課題である。このような背景から，両国の高校生が手紙による気候変動を題材とする国際交流活動は，学問的意義のみならず一人のグローバル市民として国際社会に関わろうとする意識を育成する意義ももつと言えよう。

２．授業観と授業計画

本授業は，学習指導要領「政治経済」B グローバル化する国際社会の諸課題（２）グローバル化する国際社会の諸課題の探究に位置づく授業である。

日本での授業の前に,中国の高校生に，以下の内容を含むことをＡ教師から指示したうえで，日本の高校生への手紙を書いてもらった。それは，①自分の名前や学校生活，趣味などの自己紹介,②気候変動対策についての自分の意見,③日本人高校生への質問，などの内容である。

その後,自主的に課題を提出した 38 名の生徒の手紙を，第二著者を含む，日本の大学院で学ぶ中国人留学生が日本語に翻訳した。

日本の高校においては第 1 次～第 3 次の構成による授業を行った。第一著者が勤める高校で実施した本実践の流れは表１のとおりである。

表１　本実践の指導計画

	内容
第 1 次	・気候変動の現状について動画で学習を行う。 ・二酸化炭素を多く排出している国はどこか，一人当たりで多く排出している国はどこか，調べることを通して,国としての排出量は中国が多いこと，一人当たりの排出量は日本のほうが多いことを学ぶ。 ・様々な気候変動対策のメリット，デメリットについて学び，どの対策がよいか話し合う。
第 2 次	・来校した第二著者が中国の高校生活について写真を見せながら紹介し,中国の生活や文化について考える。 ・来校した第二著者が，中国人高校生の書いた手紙と，翻訳文を各生徒に配布する。生徒がその手紙を読む。
第 3 次	・読んだ手紙に対して返信を書く。

中国人の高校生が書いた手紙は，日本語に翻訳し，日本の高校生一人ひとりに配った。日本の高校生は，受け取った手紙を書いた中国の高校生に返信の手紙を書いた。それらを翻訳し，中国の高校生に送った。

Ⅲ．実践の成果

１．中国人高校生アと日本人高校生イの手紙

以下では，中国人高校生アが，日本人高校生イに書いた手紙を示す。

日本の高校生，こんにちは！私の名前は○○で，１７歳の男子高校生です。歌を聞く，チェスが好きです。雪の天気が好きです。好きな科目は，数学，生物です。手紙で，地球温暖化について感想を述べたいと思います。この前の何百年の気候は大きいな変動はないと言えると思います。しかし，自然災害が多くなってきたことは，近年徐々に気づいています。地球温暖化はその一つの要因になると思います。海面の上昇は，沿岸部の都市にとっては大きな災害になるだろう。地球温暖化の原因は，自然原因と人為的原因に分けられることができます。そして，自然的原因より，人為的な原因は主な原因だと思います。科学技術の発展につれて，CO2 の排出が多くなってきた。そして，森林の破壊などは，空気の中の酸素のバランスを破壊した。青少年の私達にとって，自国のカーボン・ニュートラルの実現に向けて頑張らなければならないと思います。 以上は地球温暖化に対する私の感想です。また日本の高校生と話し合いたいのは,「中国史」に関する話題です。ご返信をお待ちしています。

上記の中国人高校生アの手紙では，日本人の高校生と積極的に交流しようとする態度が見られる。自己紹介を詳しく相手に伝え，地球温暖化に対して，自分の持っている知識を述べている。また日本の高校生と話し合いたいのは,「『中国史』に関する話題です。」という表現は抽象的な表現である。この点について，アは日中両国の歴史問題に興味が高いにも関わらず手紙で政治に関する言葉を避けようとして，このような表現したのではないかと中国のＡ教師は推測している。このような中国人高校生アの手紙に対して，日本人高校生イは次のように返信した。

こんにちは！私の名前は○○です。日本の男子高校生です。私も歌を聴くのが好きで，カーレースを見たり，映画が好きだったり，世界史が好きだったり，サッカーが好きだったり，色々な事が好きです。私もチェスが出来るので会える機会があったらぜひチェスがうちたいですね！私の好きな教科は歴史です。私はあなたの感想を見て，とても熱心にそして，素晴らしい考えを持っているのだなと感じました。これからの世界を担う私たちにとって，最大級の問題であるのは確かです。しかし，今の世界では貧富の差があり，差別が残り，また新たな戦争の火種も出来て，戦争も起こっています。でも，私たちがこれからを引っ張っていく人材として人種や国籍関係なく一緒に頑張っていきたいとあなたの手紙を読んで思いました。これからも共に自分の為に世界の為に頑張りましょう。「中国史」については，私はすごく興味があります。とても長い中国の歴史は世界史が好きな私にとってはとても魅力的でとても惹かれます。ですが，中国史はそこまで詳しくないので，勉強不足で申し訳ないです。日本では「キングダム」というアニメが人気で，そのアニメは中国の戦国時代の物語でとても面白いと個人的に思っています。私は中国の始皇帝のお墓にすごく行ってみたいです。私は将来，世界史か考古学の分野に関わりたいので始皇帝のお墓は前々からすごく行ってみたいと思ってました。 私からも○○さんに質問がいくつかあります。 １つ目は，あなたが日本に遊びに来たらどこか行きたい所はありますか？ ２つ目は，どこか

> 行ってみたい国はありますか？　３つ目が将来の夢とかってありますか？　４つ目が中国でおすすめの場所だったりおすすめの食べ物だったり，〇〇さんの中国のおすすめはありますか？日本に遊びに来たらぜひ会いましょうね！

中国の高校生アの手紙に返信する日本の高校生イの手紙を見ると，日本の高校生イは中国人の高校生アの書いている「青少年の私達にとって，自国のカーボン・ニュートラルの実現に向けて頑張らなければならないと思います。」に賛同している。中国の高校生アが，手紙で触れた「中国史」の点について，日本の高校生イは自分の読んだアニメなどの経験や興味に触れつつ，詳しく感想を述べている。最後に多くの質問を書いていることから，中国人の高校生アとの交流を深めたいという気持ちがうかがえる。

２．気候変動問題に関する記述とその分析

Ⅱの実践の指導計画で示しているように，本実践は，気候変動対策について日中両国の高校生が自分の意見を交換するものである。以下では，中国人高校生ウが日本人高校生エに書いた手紙の一部，気候変動問題に関する記述を抽出し示している。

> …現在，気温がますます上昇してきました。中国全国の大学入学試験が近づいています。君たちの勉強面でのストレスがたまっていますか。去年の夏に，中国のある地区では，気温が 40℃を超えていて，人々の生活への影響が大きかった。国家としては，有効な措置をとるべきだと思います。例えば，環境にいい新能源の利用を推奨する政策を定める必要があると思います。森を大量に作ることなどに力を入れるべきだと思う。私達は学生として，割り箸などの消耗品をできるだけ使わなくて，紙などをできる限り節約する必要があるのではないかと思います。…

中国人高校生ウは，自分の経験や，自国が直面している気候変動問題の現状から，気候変動問題の深刻さを述べた後，国家・国際社会や個人として，それぞれが気候変動問題の解決に向けてできることを述べた。このような中国人高校生ウの手紙に対して，日本人高校生エは次のように返信した。

> …あなたが考える紙などをできる限り節約することはとても大切であると思います。私も割り箸などは使わないようにし節約するようにしています。私はプラスチックゴミをださないことも気候変動対策につながっていくと思います。レジ袋などを貰わないようにしたりしペットボトルを使わずに水筒を持っていくようにしてプラスチックゴミを減らして行く必要があると思います。…

日本の高校生エの返信では，相手の地球温暖化に対する感想に賛同する姿勢を示しつつ，レジ袋やペットボトルなどのプラスチックゴミを出さないという視点で，自分なりの気候変動対策に関する意見を述べた。

他の日本の高校生にも，中国人の高校生の手紙内容を賛同しつつ，自分なりの気候変動問題に対する感想を述べている。彼らの記述を見れば，以下の４つの視点の内容がある。それは，第一に，気候変動問題が生じる原因である。第二に，気候変動問題の深刻さに気付いたことである。第三に，気候変動問題の解決に向けて，自分なりの意見を述べることができることである。それらの意

見が，国・政府・諸団体ができることと個人ができることに分けられる。第四に，自分が今後，気候変動問題の解決に協力しようとする意欲である。以下では，生徒の記述の例を示しながら説明していく。

まず，多くの生徒は，気候変動問題が生じる原因を詳しく述べた。その記述例として，「地球温暖化についてですが，私も気温上昇の原因は多岐にわたると思います。」（原文ママ），「地球温暖化の原因は車や火力発電などからくる排出ガスと，森林伐採にあると思います。車や火力発電では多くの二酸化炭素が排出されます。この二酸化炭素は空気中を流れてオゾン層を破壊したり，気温を上昇させます。」（原文ママ），などが挙げられる。

そして，多くの生徒は，気候変動問題の深刻さを感じた。その記述例として，例えば，「地球温暖化の問題を見ると，どんどん悪い方向に進んでいて早く対策を打たないと地球が変わっていってしまうなと少し怖いです。」(原文ママ)，「日本でも猛暑が続いたり，大雨が降ったりして気候が変わってしまっていると実感します。人間が地球の気候を変えてしまうことによって，生き物が住めなくなることに心が痛くなります。」（原文ママ），「世界中で気温が上昇し，南極の氷河は融解し，熱帯雨林の地帯もサバンナ化をしたりと生き物が過ごす環境がどんどん破壊されています。」（原文ママ），などの記述が挙げられる。

このような気候変動問題の深刻さに対して，多くの生徒は，気候変動問題の解決に向けた諸対策を提案した。例えば，国家・国際社会等が負うべき責任に関する感想として，「国単位や世界単位で，再生可能エネルギーや新興国に対する経済的な支援など，地球温暖化の対策について議論し進めていくべき」（原文ママ），「この問題については国同士の外交問題など関係なく世界中で対策を練るべきだと思います。」（原文ママ）などの意見が出た。個人ができることとして，「照明や暖房などの利用を減らしたり，車の利用を減らす」（原文ママ），「プラスチックではなく紙素材のものに変えたりと色々ある」（原文ママ），「電気の使用量を減らすために電気をつけっぱなしにしないことや，エアコンや扇風機の使用時間を少なくしたりすること」（原文ママ），などの意見が挙げられる。

また，高校生自身が気候変動問題の解決に協力しようとする意欲を表すような記述も多かった。例えば，「みんなが同じ意識をしていないと出来ないと思うのでみんなで協力しましょう。」（原文ママ），「これから私たちが暮らすこの地球のために何ができるのか，国だけではなく私たち自身も行動しなければなりませんね。」（原文ママ）などの記述が挙げられる。

以上で示しているように，両国の高校生は，様々な角度で自分なりの気候変動問題に対する感想を，手紙を通して丁寧に相手に伝えようとした。日本の高校生の多くは，相手の手紙で書いている意見を踏まえて，自分なりの気候変動問題に対する意見を述べることができた。両国の高校生は，地球規模な課題としての気候変動問題の原因について，共通認識を持つことを確認することができた。そして，本実践では，高校生が一国の中で解決しようとする認識ではなく，国際社会が協力しながら，気候変動問題を解決しようとする意見を，手紙

を通して相手に伝えようとする点で,グローバル市民の育成につながるだろう。

３．生徒による実践の振り返り

中国人高校生に手紙を書いた３日後，授業の振り返りを書いてもらった。具体的には，書き方の例も示しながら以下のように指示した。

> 先週の授業では，まず気候変動の現状についての動画を見て，どんな対策をすべきか考えました。そのあと，当時の留学生の○○さん（第二著者）が中国の高校について紹介をし,中国人高校生からの手紙を皆さんに配りました。その後，皆さんは自己紹介や気候変動に対する自分の意見，中国人高校生からの質問への返信，中国人高校生への質問などを書きました。このような体験はあなた自身にとってどのような意味があったと思いますか？
> （書き方例）
> 「これまで○○のような経験をしたことがなかったけど，このような経験をすることで○○を学べたのがよかったと思う」「この経験は私にとって○○のような意味があったと思う」「この授業を受ける前は○○という考えを持っていたけど，授業の後は○○とおもうようになった」「なんのためにこのようなことをしなければいけないのかわからなかった」「この体験をきっかけに○○に興味を持てるようになった」

なお，この振り返りを書いてもらう際に「もし,『この授業で学べたことは特になかった』,『なんのためにこのようなことをしなければいけないのかわからなかった』などと書いても成績が下がることはないので思ったことを素直に書いてください」と指示をしている。

日本人高校生が中国人高校生との手紙交流の体験をどのように意味づけているか書いた振り返りをKJ法により分類したところ，5つの大カテゴリーに分けることができた（表２）。なお，文章の末尾に丸括弧付きのアルファベットが示しているのは，分類する際に生徒に割り振った符号である。

表２　生徒が手紙交流の体験への意味づけの記入とそれぞれのカテゴリー

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	生徒の振り返りの記述
国際社会への参画意識	初めての経験	他の国の人と意見交換できた	今までだったら自分のクラスだけで話し合って終わりだったけれど，今回は日本だけの問題でなく世界の問題について日本以外の世界の人と交流が出来て，意見を共有出来た（A）
		他の国の人と意見交換する機会自体が貴重	今までこのように国を越えてのやりとりをしたことがなかったので，変なこと言わないか少し不安だったりしたけれどとても貴重な体験だったと思う（b）
	もっと交流したい	うれしかった，たのしかった	気候変動の対策だけでなくその人の趣味や好きなこともしれて，自分の趣味や好きなことの話もできてとても楽しかった。(p)
		もっといろんな国の人と関わってみたい	これからもこの体験を活かして様々な人と気候変動や様々な問題について話してみたいと思った。(p)
		もっと交流したい	相手の学校さんはめちゃ偏差値が高そうでもっと色々な考えを見てみたかった。(i)
	世界を実感	グローバル	グローバル化とか外国人交流とか言われても

		化を実感できた	今までそれを実感できた良い機会だと感じました。(N)
		中国を身近に感じた	中国人高校生の意見は知る機会がなかったが,このことを通して身近なものに感じた(g)
	イメージが変わった	中国人へのイメージが変わった	僕は中国人は無礼なやつだと思っていたけどここの高校の生徒は考えてる事がしっかりしてて，中国人に対しての印象が変わった。(c)
		外国人に偏見を持ってはいけないと思った	同じ考えをもった人が海外にたくさんいるってことがはっきりしたからこれから大人になって外国人と交流をした時にその人の国からの偏見やイメージを持たないで相手を尊重して話せると思う (d)
		互いの文化を尊重することの大切さを学んだ	自分たちの文化や暮らしが当たり前だとということをすて皆それぞれ違った文化を持っているということを心の中に留めておき失礼のないようお互いにお互いの文化を尊重しあえる環境が大切だと考えました。(f)
	将来役立つだろう	将来役立つだろう	この経験は将来，外国人と接する時に役立つだろうなと思った。(a)
他文化への関心	他国の文化への関心	他文化に興味を持った	漢字の文章で中国語について少し興味をもった。(i)
		文化の違いを知った	海外の人と交流をするのが初めてで，色々な文化があるんだなと思った。(C)
	学校文化への関心	中国の学校生活について知れた	中国の実際の学習指導や，高校生活を知れてよかったと思いました。(Q)
		同じだと思っていた学校文化の違いに気づく	学校の時間はどこの国でもほとんど変わらないと思っていたけど，中国の高校生の手紙を見て，日本とは全然違う時間割で驚いた。(C)
気候変動問題への関心	気候変動問題の重大さを実感	気候変動問題が世界共通の問題だと実感した	他の国の人と世界の問題について話してみて地球温暖化が世界にとってどれだけ重大な問題かが改めて感じることができたのでこれからは身近なところで世界に貢献しようと思えた。(q)
	気候変動問題への視野の広がり	中国の意見を聞くことができた	中国人からの立場の気候変動のことについて学べることが出来て良かった。(J)
		考え方の視野が広がった	これまで，学校である１つの議題に対して外国人と話し合う機会がなかったから，それぞれの国ごとで考え方や主観が違い，そこを照らし合わせて考えるのが良い経験になった（I）
	気候変動問題への意識	気候変動問題への意識が高まった	初めて中国の方と関わる経験ができて，年下なのに考え方がすごく大人で温暖化について深く考えてるのが伝わって，私ももっと知識をつけたいなと思えた意味のある経験でした！ (M)
		刺激になった	中国の高校生の質問や気候変動の考えを見て，世界の問題に深く考えているんだなと思った。(a)
	気候変動問題への希望	気候変動問題に希望が持てた	気候変動の対策はみんなバラバラでとてもいい対策方法だと思ったので，このように多くの人が様々な対策方法を持っていると気候変動も今よりも抑えられると思うので，(p)
		問題を考えることの難しさ	でも気候変動について深掘りすることは少し難しいなと思いました。(B)

自国の相対化	比較からの向上心	この経験は私にとって自分との生活を比べてもっと頑張らないといけないなと向上心を持たせてくれたし (Q)
	自国を誇らしく思った	中国でも日本のアニメやが人気だと知って誇らしいと思った。(H)
	日本について勉強不足だと実感した	質問で日本の綺麗な建物や文化について聞かれてあまり思いつかなかったので日本人だけど日本についての知識が全然ないなと気づいたので，もっと日本のことを知りたいな思うきっかけになりました！ (M)
授業の意味はよくわからなかった		このような体験は初めてだけど，この体験が何になるのかよく分からない。学べたことは特にないし，よく分からない授業だった。(P)

第一の大カテゴリーは,「国際社会への参画意識」である。この大カテゴリーは中カテゴリーの「初めての経験」,「もっと交流したい」,「世界を実感」,「イメージが変わった」,「将来役立つだろう」から作られている。それらの生徒たちは,今回の交流活動を通して,中国人へのイメージが変わったり，外国人に偏見をもってはいけないと思うようになったり，互いの文化を尊重することの大切さを学ぶことの意義は大きいだろう。

第二の大カテゴリーは「多文化への関心」である。この大カテゴリーは２つの中カテゴリー「他国の文化への関心」「学校文化への関心」によって構成される。それらの生徒たちは，中国人の高校生との手紙交換を通して,中国の文化,そして，中国の学校文化への関心が高まったことが多いだろう。

第三の大カテゴリーは「気候変動問題への関心」である。中国人高校生も日本人高校生も気候変動問題に対する自分の意見を書くことになっていたため,この大カテゴリーに関するコメントを書く生徒が多くいた。この大カテゴリーは「気候変動問題の重大さを実感」,「気候変動問題への視野の広がり」,「気候変動問題への意識」,「気候変動問題への希望」といった中カテゴリーによって構成される。それらの生徒の中，まず，①中国人高校生と気候変動問題について話し合うことによって，気候変動問題の深刻さを実感した生徒が多くいた。②中国人高校生の意見を聞くことによって気候変動問題への意識が高まった生徒もいた。そして，③意識が高まるだけではなく，考え方の視野の広まりも感じた生徒もいたようである。また，④気候変動問題は規模の大きい問題であるため，希望を持ちにくい生徒もいた。さらに，⑤中国人高校生と意見交換することによって気候変動問題に希望が持てた生徒もいたようであった。このように，それらの生徒たちは，気候変動問題への関心，問題を解決するような意欲が高まったという点で,今回の実践の意義があると考えられるだろう。一方で,今回の実践を通して，生徒たちは，気候変動問題について，複雑な現代社会の直面している問題点を的確に把握し,解決法を追求し最善の選択をするために,根拠を明確に論理的に考えることという学習段階に至ったことは言い難いである。

第四の大カテゴリーは,「自国の相対化」である。この大カテゴリーは３つの中カテゴリー「比較からの向上心」,「自国を誇らしく思った」,「日本について

勉強不足だと感じた」によって構成される。中国人高校生の勉強方法を知って個人的な向上心を持った生徒もいれば，自国を誇らしく思った生徒もいた。また，日本について勉強不足だと実感した事例もあった。

最後の大カテゴリーは「授業の意味はよくわからなかった」である。「このような体験は初めてだけど，この体験が何になるのかよく分からない。学べたことは特にないし，よく分からない授業だった。」と回答した生徒が１名いた。

Ⅳ．考察

生徒の振り返りを読むと，中国人高校生との手紙交換体験を，生徒は次のように意義づけていたと考えられる。第一は，外国人との初めての一対一の交流であったということである。直接会わない形であったとしても，今回の授業を受けた多くの生徒にとっては他の国の人と関わる初めての経験であった。その経験が生徒にもっと外国人と交流したいという意欲をもたせたり，世界を実感することにつなげたり，生徒の持つ中国へのイメージを変えるなどの良い影響を与えており，生徒自身もこの経験が将来に役立ちそうだと意味付けていた。第二は，他国の文化や学校への関心を持つきっかけとなったことである。中国人生徒が書いた直筆の手紙から，中国語に関心を持った生徒もいた。第三は，気候変動問題に対してグローバルな視点で考えるきっかけを与えられたということである。「他の国の人と世界の問題について話してみて地球温暖化が世界にとってどれだけ重大な問題かが改めて感じることができたのでこれからは身近なところで世界に貢献しようと思えた」，「中国人からの立場の気候変動のことについて学べることが出来て良かった」などと記述している生徒もおり，気候変動問題について教室内のみで考えるだけでなく，他国の高校生と一緒に考えることによって，気候変動問題の重大さを実感したり，視野が広がったり，問題への意識が高まったりした生徒がみられた。

なお，授業を受けた 34 人のうち 33 人は，本授業に何らかの意義を見いだしていたが，１人の生徒は「学べたことは特にない」と述べていた。振り返りを書いた後日，任意でその生徒になぜこのように回答したのか尋ねたところ，「相手がいることなので手紙の返信は頑張って書きましたが，なんのためにこれをやっているのかなと思いながら手紙の返信を書いていました。将来就きたいと思っている仕事が外国の人と関わらない仕事なので将来役立つとかは思わなかったです。」とのことであった。このように，将来役立つかどうかを重視している生徒は授業への意義を見いだしにくいのかもしれない。

Ⅴ．おわりに：本研究の意義と課題

本研究の意義は，生徒の異文化交流活動への意味づけが多様であることを明らかにしたことである。外国人とかかわった経験そのものに意義を感じている生徒もいれば，異文化に関心を持てるようになった生徒，中国の高校生と気候変動問題について意見交換したことによって気候変動をグローバルな視点で考えられることに意味を見いだす生徒もいた。このことは，教師が授業で意図し

た通りに生徒は受け止めるわけではないことを教師は自覚的になるべきであること，生徒の多様な授業の意味づけを生徒同士で共有させる活動などを行えば生徒も広い視点で授業を意味づけることができることが示唆される。

本研究の課題は，気候変動についての議論は表面的なものにとどまったことである。国際理解教育での教材が脱政治化となっている課題を解決し得る実践とは言い難い。異なる国の高校生が国際的な課題を一緒に考える機会にはなったが，一緒に解決するための具体的な議論はできなかった。手紙交換を一往復しかできなかったことも，表面的な議論で終わってしまった原因であると考えられる。今後は他国と一緒にどのようにグローバルな問題を解決することができるか，十分な事前学習のうえで交流を行うことが必要であると言える。

参考・引用文献

・池野範男（2014）「グローバル時代のシティズンシップ教育―問題点と可能性：民主主義と公共の論理―」教育学研究 81(２)，pp.138-149.
・桐山信一（2022）「公開データから探る学校の気候変動教育(CCE)のこれから―学校の総合的な学習の時間などで実施する場合を想定して―」創大教育研究，第 31 号，pp.41-51.
・豊嶌啓司（2001）「意思決定の過程を内省し，認識の社会化をはかる社会科授業」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 13 号，pp.9-19.
・永田成文（2008）「高等学校地理における地球環境問題学習の開発―社会参加を視点とした授業設計―」全国社会科教育学会『社会科研究』第 68 号，pp.31-40.
・永田佳之（2018）「地球規模課題と国際理解教育―気候変動教育からの示唆―」『国際理解教育』第 24 号，pp.3-12.
・和田文雄（2010）「探究能力の育成をめざす高校地理学習―「地球温暖化」の授業開発と実践を通して―」『新地理』58（２），pp.18-29.

An Attempt at International Understanding Education Incorporating Letter Exchange Activities between Japanese and Chinese High School Students
: Through Development of a Civics Unit Plan on International Issues

BEKKI Moeka*1 , ZHOU Xingxing*2, KUWABARA Toshinori *3

This study reports the results of the development and practice of a class in which Japanese and Chinese high school students deepened mutual understanding and became aware of themselves as members of the international community through learning activities in which they exchanged letters in order to share their thoughts on a global international issue. Through the practice, it became clear that exchange activities have the following significance for students. Firstly, it was the first one-on-one exchange with a foreigner. Even if they did not meet directly, for many

of the students in this class, it was their first experience to interact with people from other countries. Secondly, it was an opportunity for them to develop an interest in other cultures and schools. Thirdly, the students were able to consider the issue of climate change from a global perspective.

Keywords: international understanding education, civics, unit development

1 Tokyo Metropolitan Ogawa High School, Tokyo
2 School of Foreign Languages, Shijiazhuang University, China
3 Faculty of Education, Okayama University